

	English	中文	交通アクセス・地図	お問い合わせ	サイトマップ	サイト内検索
	受験生の方	広大へ留学希望の方	一般・地域の方	企業の方	卒業生の方	在学生・保護者の方

大学案内

入試情報

教育・学生生活

研究

社会連携

留学・国際交流

学部・大学院等

研究所・施設等

広報・報道

採用情報

校友会・同窓会

支援財団・基金

図書館・博物館等

大学病院

附属学校

[トップページ](#) > [広報・報道](#) > [報道発表・報道された広島大学](#) > [平成19年1月-12月](#) > 南極「昭和基地」と広島高校生徒とのテレビ会議開催について

南極「昭和基地」と広島高校生徒とのテレビ会議開催について

広島大学学長室広報グループ

〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2

TEL:082-424-6017 FAX:082-424-6040

E-mail:koho@office.hiroshima-u.ac.jp

(*※@は半角に置き換え送信してください。)

NEWS RELEASE



平成19年7月24日

《南極「昭和基地」と広島高校生徒とのテレビ会議開催について》
いま、南極・北極が熱い！
ことしは50年に一度の地球診断「国際極年」

広島大学大学院生物圏科学研究科の長沼毅准教授は、広島県立広島中・高等学校(校長:番本正和)との連携のもと、SPP講座型学習活動の一環として、南極「昭和基地」と広島高校とをつなぎ、テレビ会議による特別講義を開催しますので、お知らせいたします。

1 趣 旨

今年1月29日、南極の「昭和基地」が開所50周年を迎えました。その50周年という記念すべき本年の3月から「国際極年」がスタートしています。

「国際極年」は、世界各国が一斉に南極・北極を調べる、50年に一度の地球生命科学の祭典です。その中核をなすのは、日本が主導している南極総合調査「MERGE」(代表者:広島大学大学院生物圏科学研究科 准教授 長沼毅、25ヶ国)です。

その南極総合調査「MERGE」の代表者長沼毅が、今年が「国際極年」という絶好の機会に、テレビ会議を通して、ふだんは触れる機会の少ない南極・北極の環境・生体を高校生の皆さんに知ってもらい、そして、地球環境の現状の把握と将来予測の重要性を理解させることにより、国際極年の終了後も継続して南極・北極に関心を持つような人材育成に寄与することを目的として開催するものです。

なお、この特別講義は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)による「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」(SPP)講座型学習活動の一環として実施されるものです。

2 特別講義の概要

- (1) 実施日時
平成19年8月3日(金)14:00~17:30
- (2) 実施場所
広島県立広島中・高等学校(〒739-2125 東広島市高屋町中島31-7)
- (3) 講義等 14:00~16:40
挨拶 14:00~14:20
広島県立広島中・高等学校長 番本正和
広島大学 理事・副学長 上 真一
広島大学大学院生物圏科学研究科 准教授 長沼毅(実施主担当者)
- 講義 14:30~16:40
講 師 国立極地研究所 教授 神田啓史
広島大学大学院生物圏科学研究科 准教授 長沼毅

国立極地研究所教授神田啓史が、南極・北極の特徴を概説し、その苛酷な環境に生息する生物の特徴とそこに形成される生態系の特徴について、実験をもとに臨場感あふれる講義を行います。

パワーポイントやビデオなどの視覚的情報と現地では採取した実物の試料を合わせて用いることで、ふだんは接することのない南極・北極を身近に感じてもらいます。

【講義1】 14:30~15:25

南極・北極の環境の概説、南極昭和基地とのテレビ会議

【講義2】 15:35~16:40

南極・北極で採取した試料をもとに、環境・生態・進化等の説明

【ディスカッション】 16:50~17:20

講義等への質疑応答。調査レポート作成に向けたまとめ。アンケート回答。

広大公式アカウント一覧

 Twitter

 Facebook
(日本語版)

 Facebook
(英語版)

 YouTube

 行事カレンダー

 ストリートビュー

 キャンパスカメラ

 学内ポータル

3 資料展示

国立極地研究所から搬送されたパネル・試料等の展示

【お問い合わせ先】

広島大学大学院生物圏科学研究科准教授 長沼 毅(たけし)

携帯 090-1187-4587

E-mail: takn@hiroshima-u.ac.jp

(※@は半角に置き換え送信してください。)

〒739-8528 広島県 東広島市 鏡山 1-4-4

TEL 082-424-7986

FAX 082-424-7916

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hubol/members/naganuma.html>

参考資料

1 「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」(SPP)

<http://spp.jst.go.jp/summary/lecture.html>

「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」(SPP)は、文部科学省の「次代を担う人材への理数教育の拡充」施策の一環として、学校と大学・科学館等の連携により、児童生徒の科学技術、理科・数学(算数)に関する興味・関心と知的探究心等を育成することを目的とする事業です。

平成14年度から文部科学省で実施してきた「サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業」の調査研究の成果を踏まえ、平成18年度より、独立行政法人科学技術振興機構(JST)において実施しています。

2 独立行政法人 科学技術振興機構(JST) <http://www.jst.go.jp/gaiyou.html>

JSTは、科学技術基本計画の中核的实施機関として、我が国のイノベーションの創出の源泉となる「知の創造」から「研究成果の社会・国民への還元」までを、総合的に推進します。それとともに、その基盤となる「科学技術情報の提供」、「科学技術に関する理解増進活動」などを推し進めています。